

採用試験までの様々な壁

吉井 夏央

1. 教員を目指したきっかけ

私が教員を目指したきっかけは、高校時代に出会った教員への憧れである。私は古文や漢文が苦手で、大学の受験勉強ではとても行き詰っていた。そんな時に私の心の支えになったのが、3年間国語を教えてくださっていた教員だった。放課後も私のために時間を使って教えてくださり、精神面でも支えていただいた。担任でもない先生がここまで親身になってくれたことが私は嬉しく、私も生徒の支えになれるような教員になりたいと思った。そして、大学では教職課程を取り教員免許取得を目指した。しかし、この4年間は決して楽しいことばかりではなかった。

2. 経験した3つの壁

私は採用試験を受けるまでに大きく分けて3つの壁を経験した。

1つ目の壁は、私自身の知識量の少なさである。大学3回生の後期に私は初めて模試を受けた。その模試はD判定でしかも偏差値は40を下回っていた。このとき私はやる気を失い、「どうせ合格なんかできない」と諦めかけていた。しかし、教職サポート室の先生方はそんな私にでも必死にサポートをしてくださった。私は先生方のためにも合格して恩返しがしたいと考えるようになりもう一度心を鬼にして勉強を始めた。往復4時間以上かけて通学していたため、通学時間も単語帳を見たり教職教養の参考書を読んだりして効率よく勉強をすることを心がけていた。

2つ目の壁は、両立することの難しさである。私は実家の近くでアルバイトをし、大学ではラクロス部に所属していた。課外活動は4回生の11月まで行っていたため、勉強とアルバイト、課外活動を両立することはとても大変だった。アルバイトは週4～5日、課外活動は週5日と多忙な生活だったが、私は自分でやると決めたことは全て最後までやり遂げたいと考えていたため、全て全力で駆け抜けた。途中で挫折をしかけたこともあった。周りの教職仲間が勉強をしている中、アルバイトや課外活動をしていた私は周りに比べて劣っていると感じ焦りと不安でいっぱいだった。その時私の心の支えになった言葉は、「人は人、自分は自分」であった。この言葉を胸に私は私のペースで勉強を続けた。

3つ目の壁は、面接対策である。採用試験では面接が行われる。私は大阪市と大阪にある豊能地区の2つの自治体を受験し、個人面接と集団面接、模擬対応を行った。正直面接は何とかなるだろうと甘く考えていた。とりあえず1次試験に合格をしないとダメだと思い、1次試験のことばかり考えていた。そんな時、私はどん底に落ちる経験をした。それは、教職サポート室が1年に2回行っている模擬授業練習会である。4回生の夏に参加した模擬授業練習会で私は面接練習を様々な先生に行っていただいた。その時自分のでき

なさ加減に失望し、初めて人前で涙を流した。その時ずっとそばにいてくれたのは一緒に頑張っていた仲間たちだった。「大丈夫」とずっと声をかけてくれ、先生方もたくさん支えてくださった。この時点で1次試験の合格発表は終わっていたため、落ちてしまった仲間もいた。そんな中で私は合格できたことをありがたいと思い、みんなの分まで最後まで頑張ろうと心に決めた。

3. 後輩に伝えたいこと

私から後輩に伝えたいことは3つある。

1つ目は、絶対に最後まで諦めないでほしい。「現役合格は難しい」この言葉は私自身も何回も聞いた。しかし、最後まで諦めなかった結果私は現役合格をすることができた。「こんなにもしんどいの、何でこんなにも勉強をしないといけないのか」と何度も考えたこともあった。しかし諦めずに努力した結果、私は憧れの教員という夢をつかみ取ることができた。

2つ目は、自分を信じてほしい。「人は人、自分は自分」この言葉を覚えておいてほしい。採用試験の勉強法は人それぞれである。自分にあった勉強法を見つけることが大切である。私は、公共交通機関を使用している時は暗記を、昼はアウトプットとして問題集を、そして夜は暗記の復習という勉強法を見つけ、私にはその勉強法が合っていた。人それぞれ合った勉強法があるはずだ。その勉強法を早く身に付けた人こそが採用試験に合格できると私は考える。

3つ目は、教職サポート室を上手く利用してほしい。私は2回生から教職サポート室を利用し、2回生の後期から田阪先生に授業をしていただいた。この教職サポート室がなければ私は絶対に合格していないと言いきれる自信があるほどである。小寄先生を始めたくさんの先生方に支えられ私はここまですることができた。ぜひ一度教職サポート室に行ってほしい。後悔はしないと言いきれる。また、周りの仲間と支え合ってほしい。私は同じ国語科の仲間にたくさん支えられた。採用試験は個人種目でもあり団体種目でもあると私は考える。全員で協力し支え合うことが大切だと感じた。皆さんも今周りにいる友達と支え合って採用試験に挑んでほしい。

そして私は生徒の心のよりどころとなるような中学校の教員を目標に、春から夢であった教員になり頑張っていきたい。